

【目標】外国人児童生徒及び帰国児童生徒等に対し、日本語基礎指導や適応支援等、学校生活に必要な日本語を習得するための指導・支援を継続的に行うとともに、受け入れ側となる教員や児童生徒の多文化共生の意識を高め、対象児童生徒が安心して学校に通い、学び合う環境を整える。

【課題】		【R 7 の目標達成度】	
個に応じた丁寧な指導のための適切なアセスメントの実施。		日本語初期の児童生徒の生活言語の向上	83% (目標78%)
在籍学級での授業参加を進めるための学級担任が行う支援の充実。		年度当初より学校生活が楽しいと感じている児童生徒	9 2 % (目標値 9 3 %)
個に応じた日本語指導を充実させるための計画的な研修の実施。		学校と日本語指導教室・日本語指導教員・日本語指導員との連携強化	アンケートによる肯定的評価 100%
海外から転入直後の児童生徒に対する指導体制の整備。		初期日本語指導終了児童生徒への外国人児童生徒支援教員による D L A 実施	達成率 100%
学校における多文化共生教育の推進。		I C T を活用した日本語指導への取組	実施率 100%
日本語指導指導の充実			
○日本語レベルに応じた日本語指導の実施			
○教育委員会及び日本語指導教員並びに日本語指導員と学校の連携強化			
○特別の教育課程を編成し、個々に応じた指導を実施			
日本語指導教員（拠点校教員）の活用			
○D L A に基づく日本語指導・ J S L の指導の実践			
○拠点校、近隣校への来日直後の児童生徒適応支援			
○拠点校、訪問校での支援コーディネート			
○多文化共生に関する授業研究と実践及び多文化交流会の実施、情報発信			
日本語指導教員、日本語指導員、学校職員への研修			
○全校研修による多文化共生と受け入れ体制づくりの推進			
○日本語指導教員、学校職員、日本語指導員に対するICT活用研修による在籍学級での授業参加の促進			
○日本語指導教員に対する D L A ・ J S L 研修による専門知識・理解及びスキルの向上			

【成果と今後の課題】

日本語指導教員の指導体制整備と学校との連携により、日本語指導が充実し、目標を達成する児童生徒が増加してきている。また、今年度から行っている来日直後の児童生徒等への初期適応支援は、支援に入った全ての学校から肯定的な評価が得られ、児童生徒や学級、学校にとって大きな支援となったことが分かった。令和8年度は、さらに在籍学級での授業参加度が上がるよう、ICTの活用及びUDや多文化共生の視点を取り入れた支援体制の充実を図り、日常における児童生徒へのきめ細かい配慮のある指導、支援を目指す。